



九州大学

DISCOVERY

2016-2017

常に未来の課題に挑戦する大学として

九州大学は、2011年の創立百周年を機に、新たな百年に向けて、すべての分野において世界のトップ百大学に躍進する、「躍進百大」というスローガンを掲げ、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」を基本理念としています。

基幹総合大学である九州大学の強みは、研究者の知的探究心に基づいて広範な分野において独創的・基礎的学術研究が遂行されていることです。裾野の広い学術研究は人類の文化的・社会的生活を豊かにするとともに、イノベーションの起動力となり、かつては予想もできなかった地球環境問題、資源・エネルギー問題や難治性疾患の病態や治療の解明などに果敢に挑戦し、多くの成果をあげてきました。このような学術研究の根源的な価値に改めて注目し、その発展を支えるための支援システムを強化します。

学術研究においては、異分野間の接触が新たなフロンティアを開拓する原動力となります。専門分化した学術分野の推進とともに学術分野の融合と統合を目指します。

世界トップクラスの卓越した研究成果が期待できる分野については、さらなる高みを目指し世界最高水準の研究拠点となるように重点支援し、人類が直面している課題解決につながる最先端研究、新しい社会システムの提案や実証実験を積極的に進めます。

人文社会科学を含む科学技術は社会経済の発展を支えます。また、グローバル化する社会経済において活躍できる人材が求められています。そのような人材には、文理にわたる基礎的知識と課題解決のための学際的な思考力、課題を発見しその解決のために自律的に学び続ける能力と姿勢が求められます。また、異なる価値観を有する人達と良好な関係を築いて協働できる外国語運用能力を含むコミュニケーション能力も必須です。九州大学はこのような人材像を目指し、基幹教育や創設準備を進めている新学部等において、海外留学も積極的に取り入れることにより、高い国際性を備えたアクティブラーナーを育成します。

九州は古代より大陸文明受容の玄関口となってきたため、異文化に対する包容力を持つ地域文化を育んできました。また、キャンパスはまさに大陸文化を取り入れた地に立地し、海と山の豊かな自然に囲まれています。学生は豊かな文化・自然環境の中で、教育や研究に優れた教員、国際性豊かな仲間、地域コミュニティ・地域産業界の人々との交流を通じて幅広い視野をもち、個性的で社会のリーダーとなる人材に育っていきます。

少子高齢化が進展する中で、活力ある経済活動に支えられて豊かな文化が発展・継承されていくためには、産業振興と雇用の創出が不可欠です。九州大学は科学技術イノベーションを牽引することによって地域産業の創出と発展に力強く貢献します。近年の科学技術イノベーションは、産学官民が学問分野を超えて交流することによってスピード感のある実用化、社会実装を目指すようになっていきます。九州大学は水素エネルギー研究や社会情報基盤に関する研究に見られるように、オープンイノベーションの中核となって、産学官民の強力な連携を進めることで地域創生に貢献します。

これらの実現に向けて「九州大学アクションプラン2015-2020」を策定しました。このアクションプランに基づく取組みを着実に進めたいと思います。九州大学は、教育、研究、診療そして社会貢献など多様な活動を推進し、これからも常に未来の課題に挑戦する大学であり続けます。

アクションプラン（骨子）

- I 世界最高水準の研究とイノベーション創出
- II グローバル人材の育成
- III 先端医療による地域と国際社会への貢献
- IV 学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり
- V 組織改革
- VI 社会と共に発展する大学



九州大学総長 久保 千春

目次

沿革	4
教育	6
共創学部(設置構想中(2017.1現在))/基幹教育/21世紀プログラム/アントレプレナーシップ教育/博士課程教育リーディングプログラム	
研究・産学官民連携	12
113番元素/エネルギー研究教育機構/次世代燃料電池産学連携研究センター/カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所/最先端有機光エレクトロニクス研究センター/味覚・嗅覚センサ研究開発センター/生体防御医学研究所/グリーンファルマ研究所/応用力学研究所/芸術工学研究院/アジア埋蔵文化財研究センター/法科大学院 スマートモビリティ推進コンソーシアム/AIを用いた実証実験/歩行アシストスーツ	
国際交流	20
スーパーグローバル大学創成支援/留学生数・海外オフィス/外国人留学生・研究者サポートセンター/短期留学生受入プログラム/海外派遣/韓国研究センター/EUセンター/アジア太平洋未来研究センター/国際協力	
九州大学病院	26
附属図書館	28
キャンパス移転	29
学生の生活支援とキャリアサポート	30
大学の組織	32
データで見る九州大学	34
キャンパス所在地/アクセス	35





沿革

九州大学の創立前史は、1867年(慶応3年)に設立された福岡藩の藩校賛生館にはじまります。賛生館の医育・医療機関としての機能は後に修猷館内診察所、福岡病院、県立福岡医学校、県立福岡病院と受け継がれ、1903年(明治36年)、京都帝国大学福岡医科大学へと結実しました。その後、1911年(明治44年)に九州帝国大学として創設されて以来、時代と共に「知の拠点」として飛躍し、100年の歴史と伝統を築いてきました。

1879
明治12年

県立福岡医学校開設

1888
明治21年

県立福岡病院開院

1903
明治36年

京都帝国大学 福岡医科大学創立

1911
明治44年

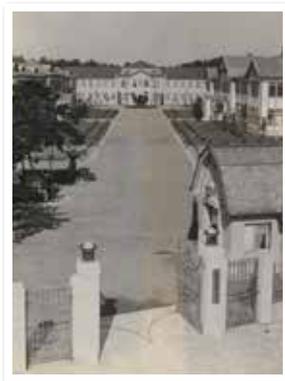
九州帝国大学創立
(工科大学・医科大学から成る)
※東京、京都、東北帝国大学に次ぐ
第4番目の帝国大学として創立

1919
大正8年

農学部設置
医学部、工学部
に改称

1924
大正13年

法文学部設置



農学部正門(大正13年頃)

1939
昭和14年

理学部設置

1947
昭和22年

九州大学に改称

1949
昭和24年

新制九州大学設置
教育学部、法学部、経済学部、
文学部設置



九州帝国大学工科大学正門(大正3年)



アインシュタインの来学(大正11年)



法文学部本館(大正14年)



百周年記念式典(平成24年)

1961
昭和36年

創立五十周年

1964
昭和39年

薬学部設置

1967
昭和42年

歯学部設置

1968
昭和43年

九州芸術工科大学創立

2003
平成15年

九州芸術工科大学と統合

2004
平成16年

国立大学法人化

2005
平成17年

伊都キャンパス開校

2011
平成23年

創立百周年

2012
平成24年

創立百周年記念式典挙行



創立五十周年記念式典(昭和36年)



創設当時の薬学部(昭和39年)



九州芸術工科大学との統合記念式典(平成15年)



伊都キャンパス誕生記念式典(平成17年)

広い教養と深い専門性を有する
 真のリーダー力を育む
 質の高い教育

共創学部

School of Interdisciplinary
 Science and Innovation

—2018.4 START—

九州大学は、2018年4月に文理融合の「共創学部」(定員105名)を新設し、地球規模の課題・問題をテーマとする学修を通じて、「自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできるグローバル人材」を育てます。

現在を、未来を、共に創る

Innovation

幅広い学問分野

Class Share

習熟レベルに応じた英語教育

海外留学

社会的課題の設定

データサイエンス

デザイン思考

知の交流

文理融合

協働学習(PBL/TBL)

基幹教育

自ら問いを立て、新たな知を創造する

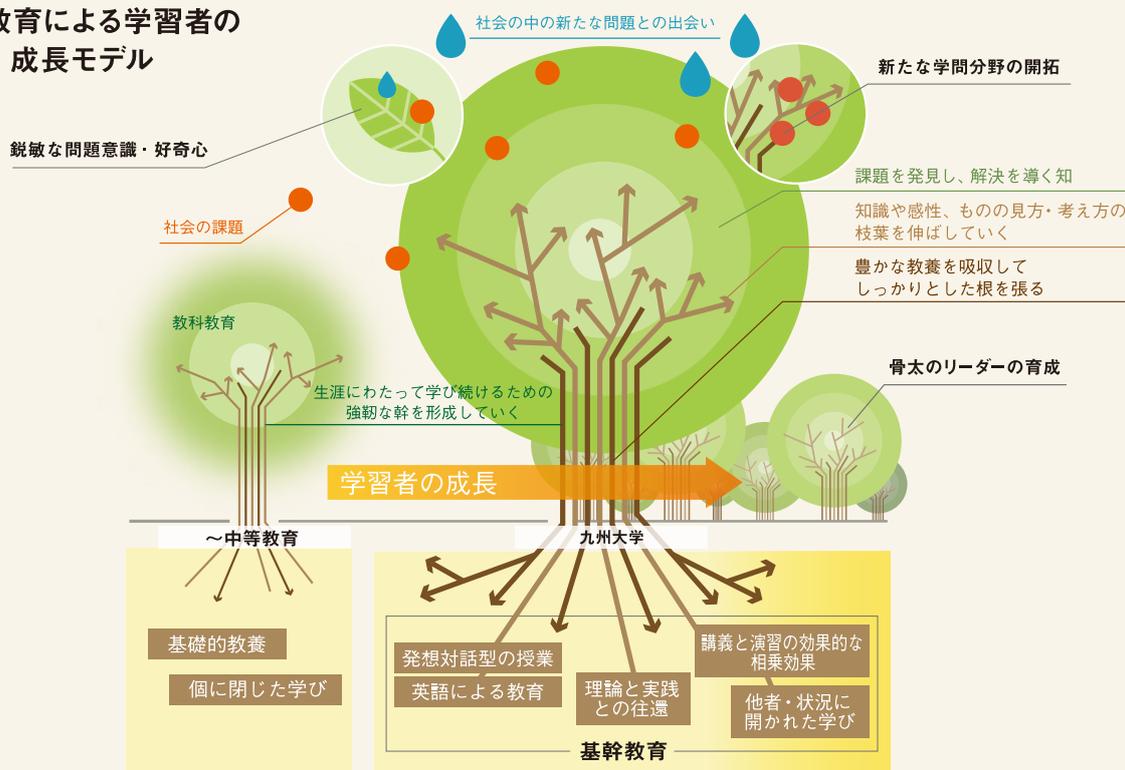
九州大学の学士課程教育は、「基幹教育」と「専攻教育」から構成されています。

基幹教育とは、新たな知や技能を創出し、未知なる問題をも解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶ教育です。

大学では、自ら問いを立て真理を追究する、自立的な学びが求められます。この学びを学生が修得するには、学問の基礎となる重要な知識や技能を蓄えるだけに終わらせず、既存の知識や経験に照らし合わせながら、「なぜ、どうして?」、「他の可能性はないか?」というように創造的・批判的に吟味・検討することが肝要です。

アクティブな知的好奇心をもって新たな視点から考え直し、世界(「ヒト・モノ・コト」)に挑戦し続けるために、“問う”学び(心構え)を習慣化しなければなりません。これにより積極的かつ主体的に、どのような問題や状況に対しても、怖れることなく、新たな知や可能性を求めてチャレンジする素地を整えるのです。

基幹教育による学習者の成長モデル



● 基幹教育カリキュラムの構成と目的

履修期間	1年次	2年次以降
修得単位数	36単位	12単位を目安として各学部で修得単位数を設定
履修場所(キャンパス)	伊都キャンパス	専攻教育を実施する各キャンパス
カリキュラムの目的	大学生としての学びへの転換(受動的学習スタイルから能動的学習スタイルへ、知識重視から思考重視へ)を図る時期として、大学での学びの基礎となる態度の涵養と知識の習得	学習や経験によって生じる学生の意識や意欲の変化を踏まえ、それぞれの専門を越えた視点や知識の学習を促す

● アクティブ・ラーナーとしての心構えや態度づくりを育成する基幹教育科目

<p>自ら考える 思考能力を身につける</p> <p>基幹教育セミナー 課題協学科目</p>	<p>健全な心身を磨く</p> <p>健康・スポーツ科目</p>	<p>高度でより広い知識を 習得する</p> <p>言語文化科目、総合科目 文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 サイバーセキュリティ科目(2017.4~)</p>	<p>より深い アクティブ・ラーナーへ</p> <p>高年次基幹教育科目</p>
--	----------------------------------	---	--

21世紀プログラム

既存の枠組みを越えた 学部横断型教育課程

「21世紀プログラム」は、21世紀を担う人材の育成を目指す学部横断型の教育課程です。幅広い視野を持ち、21世紀の社会や人類が直面するさまざまな困難に対する問題発見や課題設定とその解決能力に優れた「専門性の高いゼネラリスト」を養成します。

● 21世紀プログラムの4つの教育理念

21世紀を担う人材の育成

今、社会で求められているのは、既存の知識の枠組みを超えて生じるさまざまな変化に対応し、問題をいち早く発見・解決することができる新しい形の「知識」です。21世紀プログラムでは、この「知識」を活かし、現代の政治や経済、科学技術、社会、文化の場でリーダーシップをとる人材＝“21世紀を担う人材”を育成したいと考えています。

専門性の高いゼネラリスト

21世紀プログラムでは、新しい形の「知識」をもった人間像として「専門性の高いゼネラリスト」というものを考えています。それは、ある領域について専門的な知識を有しながら、関連した専門領域を横断し、それを広範囲な視点から統合できる、つまり、専門に偏りがちな学問の知を社会と結びつける能力のある人です。

「創造を引き出す知識」と「基礎的な知識」の修得

「創造性を引き出す知識」の修得のために、学生が自主的に学ぶ意欲や関心を尊重し、その能力を最大限伸ばそうと考えています。学生は自ら問題を発見し解決するために、大学の教育科目全体を創造的に活用し自主的に学ぶ意欲や関心をもつことが求められます。そして、その自主性を積極的に活かし、現代の社会が抱える問題を読み解き、理解し、解決するために必要な「基礎的な知識」、また、それを表現するコミュニケーション能力や語学力を併せて身につけてほしいと考えています。

「外」に開かれた人材の育成

この「外」とは、第一に社会を意味します。講義の中でも、積極的に社会と交わり、社会の問題を取り込み、大学の知識と社会の問題とを結びつけることができる人材を育成したいと考えています。また同時に「外」は「日本という枠組みの外」をも意味します。国際化が進む現在、日本という枠組みを超えた国際的な視点で思考し行動することができる人材は、社会においてますます重要な役割を果たしていくでしょう。21世紀プログラムではこの二重の「外」に開かれた知識を備えた人材を育成したいと考えています。

● オーダーメイドの教育プログラム

21世紀プログラムの学生は、原則として九州大学で開講されている全学部の授業から履修する授業を選ぶことができます。つまり、何を学ぶかは自分次第。幅広い分野からそれぞれの興味や関心に合わせて計画を立て、修学することができます。もちろん、定められた必修科目はありますが、それ以外は自分の立てた研究計画に沿って自分だけのオーダーメイドのカリキュラムを組むことが可能です。そこには、自分の未来を自ら切り拓く自発性と自律性への期待が込められています。

21世紀プログラム カリキュラム構成



アントレプレナーシップ教育

独自性の高いプログラムで、
チャレンジ精神と創造性を高める

ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC)

米国にて起業家として大成功をおさめた九州大学の卒業生、ロバート・ファン博士の百周年記念寄附金をきっかけとして設立された、アントレプレナーシップに関する総合的教育・研究センターです。全学部・大学院生を対象として毎年30科目程度を開講。その他、学生の独創的活動を支援し、社会のあらゆる分野で積極的に新しい価値創造にチャレンジし、自らの夢実現を目指すアントレプレナー育成を行っています。

QRECの 目標

世界のあらゆる分野において新たな価値創造に挑戦し、イノベーションを創出するアントレプレナーを育成します。

また、新興国ビジネスや社会的起業等、現代的な課題への対応力養成も含めた、ユニークかつ国際的競争力ある組織として、九州、日本はもちろんのこと、アジアにおける本格的かつトップクラスのアントレプレナーシップ教育・研究組織を目指します。

グローバル

米国やアジアなど、世界の大学や企業等とネットワークを結び国際標準の教育カリキュラムを目指すとともに、国際的な学生交流、教員交流を積極的に進めます。また留学生の積極的な参加を求め、多様な環境を提供します。

プラクティカル

座学による講義に留まらず、ケーススタディや現実のアントレプレナーのゲスト講義、具体的なプロジェクトベース教育、双方向のディスカッション等、リアルでインパクトのある講義を行います。また産学連携を活かし、企業との連携講義やインターン等を進めます。

デザイン

新しい社会的価値実現のためには、問題が何かを探索し発見した問題の解決のための構想を立てる(Design)が必要です。またその発想力や能力を高めることは、自らの夢実現にも繋がります。QRECはそのようなデザイン力養成を目指します。

● QREP2.0

アントレプレナーシップと国際意識の涵養を目的とした教育プログラムです。約1週間のプログラムを通じて、米国におけるアントレプレナーシップ(起業家精神)に関連の深いスタートアップ企業や大学において、多彩な現地講師らによる講義や米国大学生との交流を通じて、自らのチャレンジ精神を高める機会を提供します。起業家、研究者、留学生、米国企業で働く方など様々な方々が参加、世界トップの研究やビジネスを知り、日本とは異なる多様な価値観に触れることができます。



● チャレンジ&クリエイション (C&C)

九州大学に在籍する大学院生や学部生が企画するユニークな研究・調査プロジェクトに対し、助成および実行のサポートをする全学事業。自ら企画、計画、実践することにより、創造性を発揮する喜びを知る機会を提供しています。



授賞式



任意の形状の移植骨として完全に適合



風車の比較実験用タワーにて

博士課程教育 リーディングプログラム グローバルリーダーへと導く大学院教育

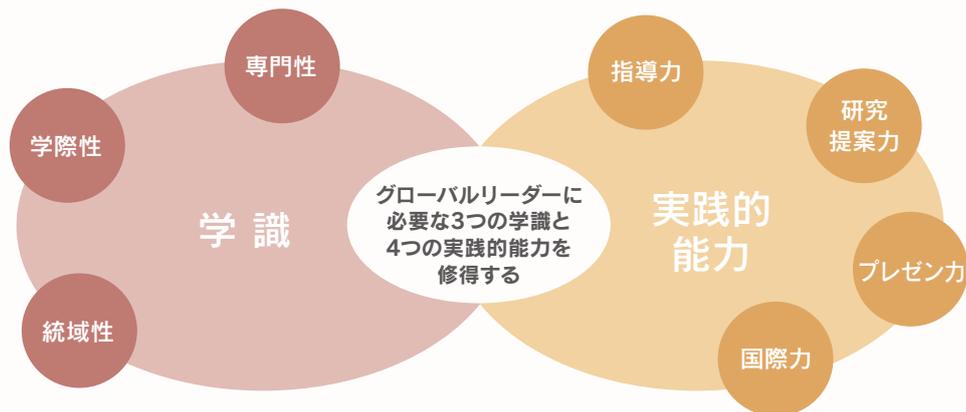
九州大学では、優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導くため、文部科学省事業「博士課程教育リーディングプログラム」を展開しています。これは、産学官の参画を得ながら専門分野を越えた人材育成を行う博士課程前期・後期一貫教育プログラムであり、世界に通用する質の保証された学位プログラムです。

持続可能な社会を拓く 決断科学大学院プログラム

これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、世界トップレベルの業績(専門性)、持続可能な社会を実現するための広範な知識(学際性)に加え、課題解決への決断を下すための新たな学識(統域性)が求められます。また、実践的能力として、国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力が必要です。これらを修得できる5年一貫のカリキュラムが「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」です。

プログラムの特色

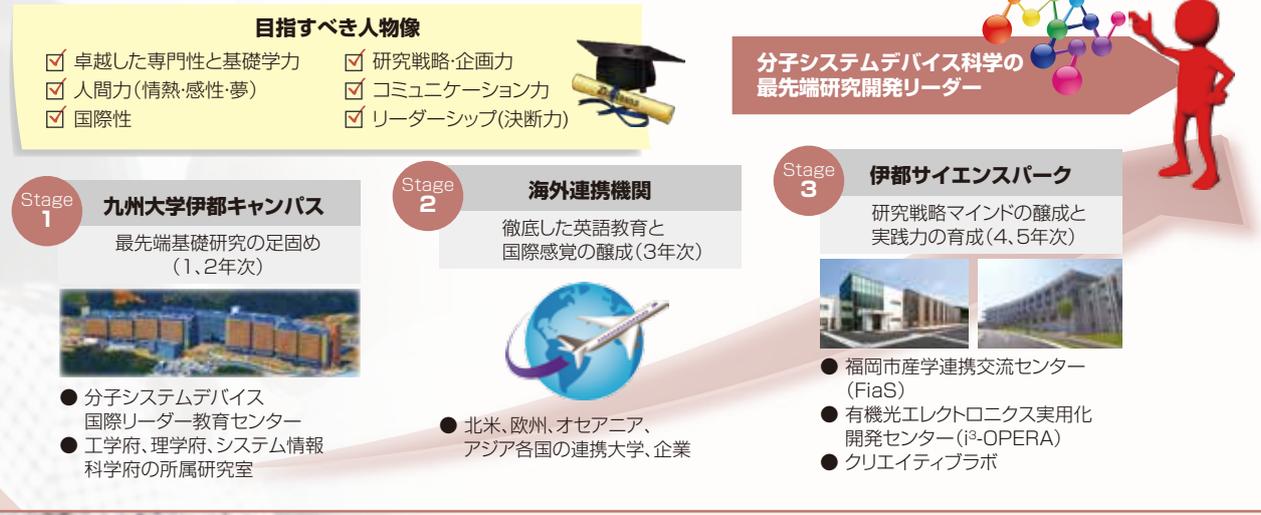
- 1 オールラウンド型科学として、決断を成功に導く方法論に関する「決断科学」を開拓し統域的な思考力を修得。
- 2 問題解決型の国際共同研究に参加し、現場経験を通じて実践的に学際性を身につける。
- 3 組織研修ワークショップにより、100名規模の組織運営の経験を積み指導力を身につける。



分子システムデバイス国際研究リーダー養成 および国際教育研究拠点形成

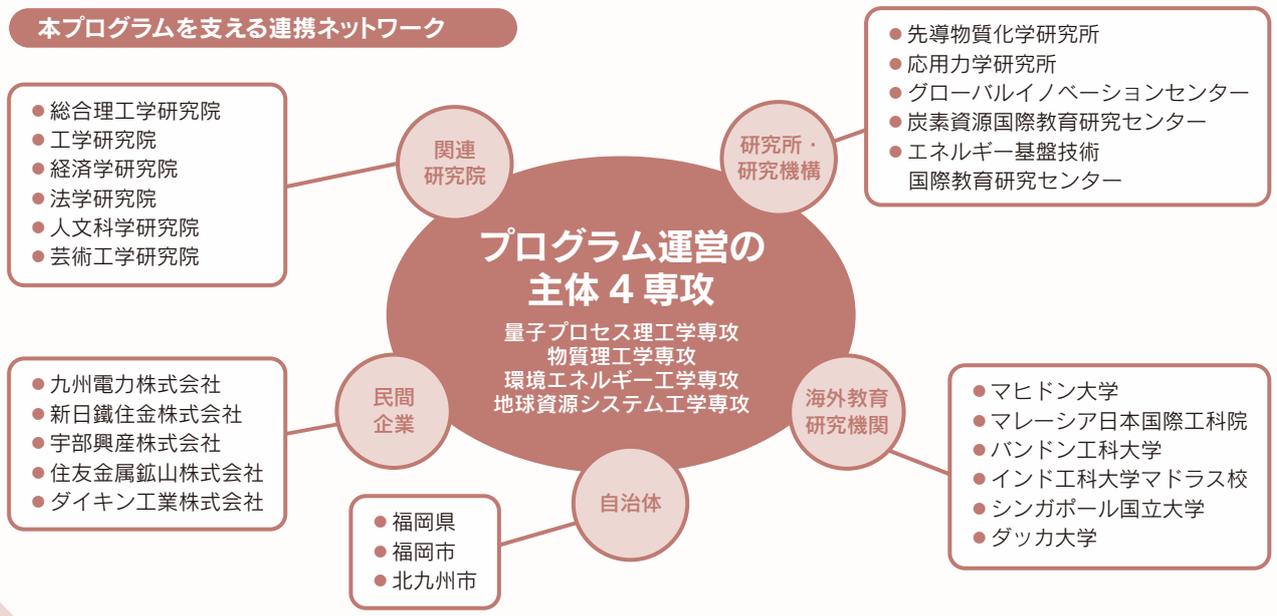
現状を打破し、他の追随を許さない次世代の産業コア形成を担うには、卓越した専門性を基にした高度な研究推進力と、分野を超えた幅広い俯瞰力に加え、決断力やコミュニケーション能力、情熱や感性を備えた人間力が不可欠です。

本プログラムでは、産官学が一体となって多様な視点から教育を行うことにより、国際社会で真に活躍できる分子システムデバイス科学の最先端研究開発リーダーを養成しています。



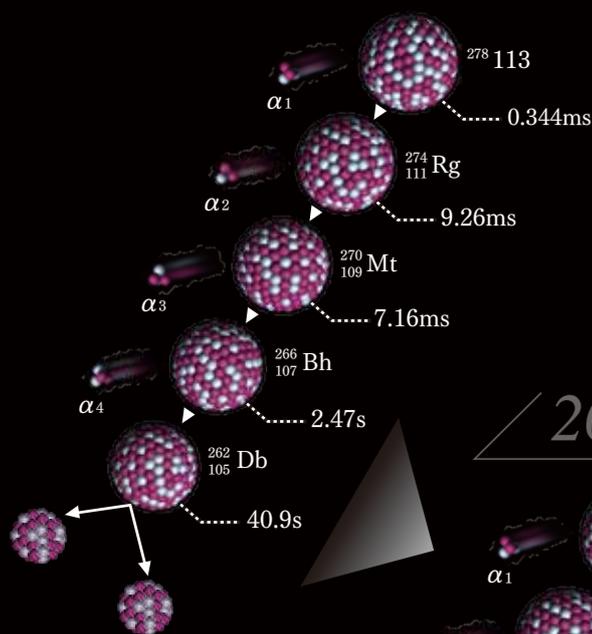
グリーンアジア国際戦略プログラム

グリーン化(資源消費量低減)と経済成長を両立したグリーンアジアの実現に資する理工系リーダーを育成するプログラム。物質材料科学、システム工学、資源工学のいずれかを専門とする大学院生が、環境学に加えて社会学、経済学の基礎を複合的に学んだうえ、国内外の実践経験を積みます。それにより、理工系リーダーに必要な研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力を修得し、同時にアジアにおける人材ネットワークを形成します。

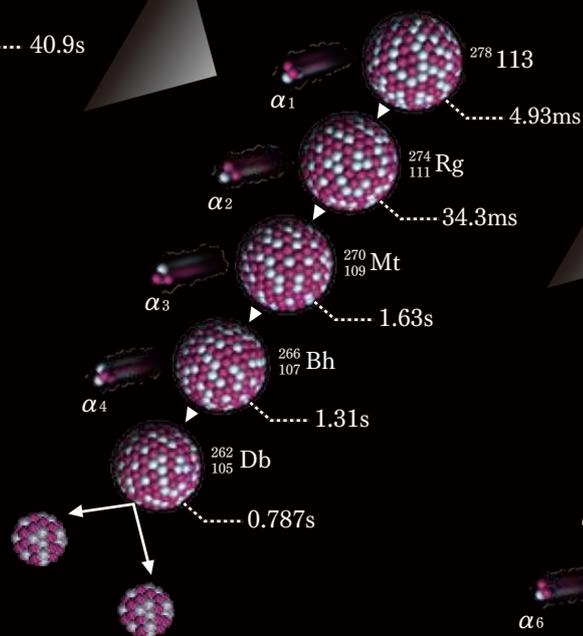


世界トップレベルの 研究と 産学官民連携

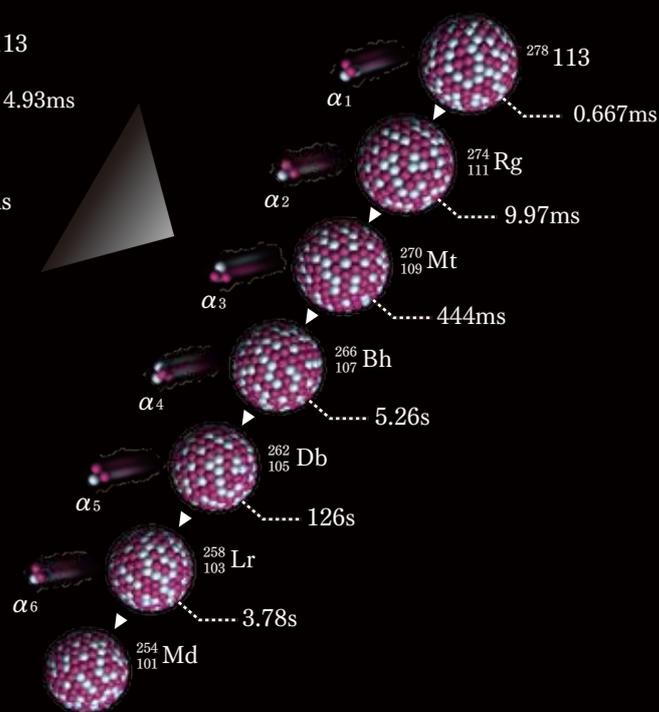
2004.7.23



2005.4.2



2012.8.12



113番元素の命名権をアジアで初めて獲得し、
元素名「nihonium(ニホニウム)」、元素記号「Nh」と命名しました。

113番元素の合成

原子番号30の亜鉛を原子番号83のビスマスに照射・融合して113番元素を合成。その後、陽子と中性子が2個ずつ離れていくアルファ崩壊(図 $\alpha_1 \sim \alpha_6$)が起き、111番のレントゲニウム、109番のマイトネリウム、107番のボーリウム、105番のドブニウムへと変化していきます。2004年と2005年にはドブニウムは自発核分裂を起こし、2012年にはさらにアルファ崩壊を繰り返して、103番のローレンシウム、101番のメンデレビウムへと変わりました。



大学院理学研究院
(国立研究開発法人理化学研究所
超重元素研究グループ グループディレクター)
森田浩介教授

- 「今世紀後半、そして2100年の社会のエネルギー」を具体化するため、自然科学から人文社会科学にわたるエネルギー分野の研究者を結集した全学的組織として、1次(自然、炭素)及び2次(水素など)エネルギー並びに政策提言等の研究領域を融合することにより、未来社会のエネルギーシステムを構築し、技術・産業・社会のパラダイムシフトを先導します。
- 部局の壁を取り去ったオール九大のプラットフォーム組織「機構」で「あるべき未来社会」を提案します。
- 総合大学である九州大学の強みを活かし、連携研究、学際融合研究を深めます。



- 「機構」: 連携・学際融合研究を支援
- 「取組」: 個別の活動を支援

次世代燃料電池 産学連携研究センター (NEXT-FC)

地球温暖化対策として、
低炭素社会に貢献する次世代燃料電池研究

2011年度経済産業省「イノベーション拠点立地支援」事業に採択されたことを受け、設立されました。

昨今のエネルギー事情や地球温暖化問題の抜本的な解決策のひとつとして注目されているクリーンで高効率な発電システム「固体酸化物形燃料電池」をはじめとする次世代型燃料電池の本格的な普及を目指し、耐久性や信頼性の確保、さらなる高性能化など、さまざまな課題の克服に向けて、企業や行政との緊密な産学官連携の研究拠点として活動しています。

カーボンニュートラル・ エネルギー 国際研究所(I²CNER)

環境に調和する持続可能な社会の実現を目指す

I²CNERは、文部科学省による世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の拠点として、2010年に設立されました。

CO₂の排出を減らすとともに、非化石燃料によるエネルギーシステムを構築するための基礎科学を創出することによって、環境調和型で持続可能な社会の実現を目指しています。

I²CNERでは、光触媒を利用した水素製造、水素貯蔵、耐水素材料、次世代燃料電池、触媒作用、CO₂の分離・転換およびCO₂地中貯留技術などの研究課題に取り組んでいます。



WPIは、システム改革の導入等の自主的な取組を促す支援により、第一線の研究者が是非そこで研究したいと世界から多数集まってくるような、すぐれた研究環境と合わせて高い研究水準を誇る「目に見える研究拠点」の形成を目指しています。

最先端有機光 エレクトロニクス 研究センター(OPERA)

革新的有機材料・デバイスから
エレクトロニクスの未来を創る

半導体機能を発現する有機分子を集積した有機光デバイス。その研究においては、必要な機能の発現をめざした新しい分子設計の開拓が期待されています。

「安達分子エキシトン工学」ではエキシトン機構を新しい分子設計で制御することによって、高性能光電変換素子や有機半導体レーザー、蓄光・蓄電デバイス、高性能有機ELの創成を行います。さらにはバイオエレクトロニクスへの展開を行い、生体適合デバイスの開発につなげます。



味覚・嗅覚センサ 研究開発センター

世界で初めて開発に成功した、
味を識別・認識する味覚センサ

九州大学は、脂質高分子膜を用いて味を識別・認識する味覚センサの開発に、世界で初めて成功しました。膨大な数の味物質を5つの基本味である塩味、酸味、苦味、うま味、甘味に分解・分類する、いわゆる広域選択性の概念により味を識別・評価します。味覚センサは、既にインテリジェントセンサーテクノロジー社により商品化され、食品メーカーや研究所等で活用されています。現在は、さらに匂いセンサの研究・開発にもチャレンジしています。



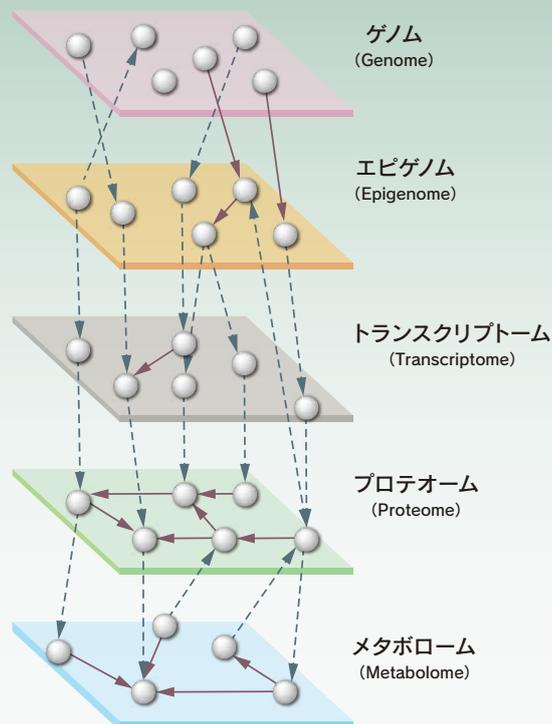
生体防御医学研究所

生体防御医学分野の トランスオミクス研究教育拠点

生体防御医学研究所は生体の恒常性を維持するために重要な「生体防御」を研究テーマに据え、生命現象の本質に迫る基礎研究を展開するとともに、生体防御機構の破綻による疾患の発症機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開しています。2013年には「トランスオミクス医学研究センター」を設置し、多階層のオミクス技術を用いた医学研究の世界拠点を目指しています。2016年4月からは、このセンターをコアに国内の3つの共同利用・共同研究拠点と協力して「トランスオミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業」を推進しています。

トランスオミクス研究

「階層を超えた、新しい生命の地図」

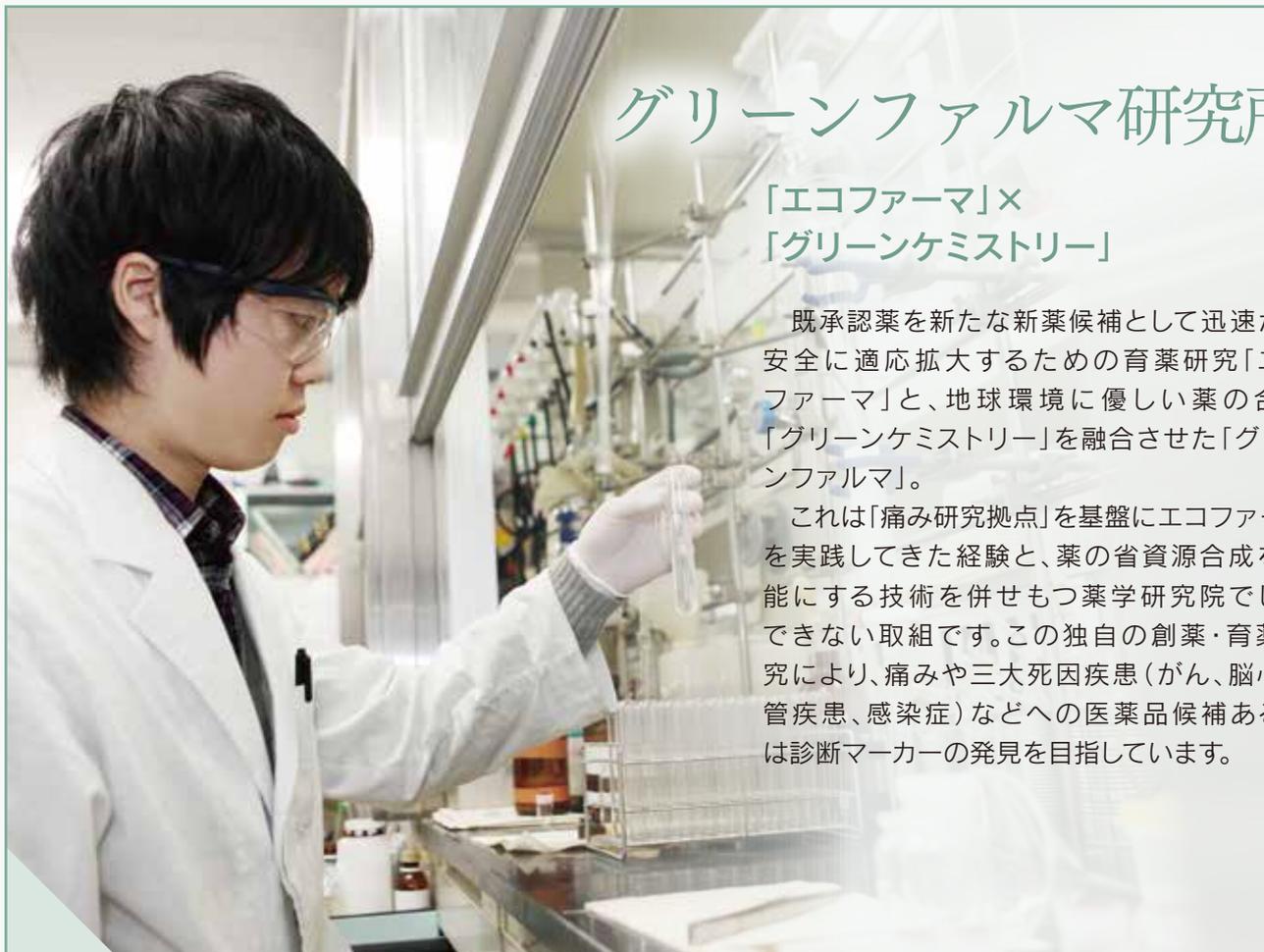


グリーンファルマ研究所

「エコファーマ」× 「グリーンケミストリー」

既承認薬を新たな新薬候補として迅速かつ安全に適応拡大するための育薬研究「エコファーマ」と、地球環境に優しい薬の合成「グリーンケミストリー」を融合させた「グリーンファルマ」。

これは「痛み研究拠点」を基盤にエコファーマを実践してきた経験と、薬の省資源合成を可能にする技術を併せもつ薬学研究院でしかできない取組です。この独自の創薬・育薬研究により、痛みや三大死因疾患（がん、脳心血管疾患、感染症）などへの医薬品候補あるいは診断マーカーの発見を目指しています。



応用力学研究所

超高効率な発電性能を持つ、
次世代小型風力発電「レンズ風車」

新エネルギー工学部門風工学分野では、自然エネルギーの利用割合を増やしてクリーンな社会づくりに貢献することを目指した風力エネルギーの有効利用に関する研究の一環として、「レンズ風車」を開発。これは発電効率を飛躍的に高めた風力発電システムであり、同時に静かさ、安全性、景観に溶け込む美しさを兼ね備えた次世代小型風力発電として注目を集めています。



芸術工学研究院

国際的に活躍できる
イノベーター人材を育成

芸術工学研究院では、国内外のデザイン系大学とのネットワーク構築、本ネットワークを生かした産業界を含むイノベーションデザインの共同研究およびその成果の社会実装の取組を進めており、デザイン学の世界拠点化を目指しています。

これまで積み重ねてきた、イノベーション創出の基本となる「デザイン思考」を涵養する多様な教育実績に本取組を導入し、世界を先導するリーダーの育成に力を入れています。



アジア埋蔵文化財 研究センター

文系・理系の枠にとらわれない、
東アジアの埋蔵文化財の研究拠点

「文化財調査開発部門」「発掘調査社会連携部門」「精密分析部門」「年代測定部門」「歴史情報研究部門」の5部門で構成され、学内だけでなく国内、東アジア各地の埋蔵文化財を研究する機関として設置されました。最先端精密分析装置を有し、文理融合の新たな研究体制を構築し、東アジアにおける埋蔵文化財の国際研究拠点を形成することを目的としています。



法科大学院 (ロースクール)

人間に対する温かい眼差しをもった
法曹を育成

法科大学院は、西日本において最大規模であり、地域の基幹校として、優れた法曹の養成に貢献しています。

少人数による双方向・多方向教育、段階的・発展的な教育プログラム、法曹三者との緊密な連携、充実した自学自修支援体制を特色としています。



大学の知識を、地域、社会、未来へと還元する 産学官民連携

九州大学は知的財産を中心に人材、施設、ブランド、ネットワークなど、大学が持つ全てのリソースを最大限に活用し、社会に還元するために産学官民連携を重視しています。

同時に、産学官民連携を通じて大学は社会の動向やニーズを知り、研究や教育の活性化に役立てていきます。

また、本学の学術研究等の推進支援および産学官民連携のマネジメント組織として「学術研究・産学官連携本部」(AiRIMaQ)を設置しています。

スマートモビリティ推進コンソーシアムを設立 九州大学伊都キャンパス内の自動運転バス サービスインに向けて

九州大学、株式会社NTTドコモ、株式会社ディー・エヌ・エーおよび福岡市は、「スマートモビリティ推進コンソーシアム」を設立。これは2018年度下期に九州大学伊都キャンパス内の自動運転バス※¹のサービスインの実現を目的とし、走行実験や通信ネットワークおよびサービスプラットフォームの技術開発とそれに伴う実証実験のほか、国家戦略特区※²を活用した規制緩和等を合わせて検討していきます。

伊都キャンパスは約275haの広大な私有地であり、キャンパス内の道路には坂や信号があります。バスや乗用車、2輪車、自転車、歩行者などの多数の往来が伴う公道に近い環境のため、技術の確立・ノウハウの蓄積が可能です。

※¹ 運転席のないバス車両を用い、ドライバーレスに移行する前段階として、緊急の場合等に対応するオペレーターを同乗させる状態での運行をイメージ

※² 日本の経済活性化のために、地域限定で規制や制度を改革し、その効果を検証するために指定される特別な区域

通信ネットワークおよび サービスプラットフォームの 技術開発の具体的な内容

- 1 「路車間協調技術」
見通しの悪い交差点にセンサーを設置することで、車両に搭載されたカメラでは認識できない車や人を察知し、バス側だけではなく「遠隔監視センター」にも伝えるといった、二重の安心を確保。
- 2 「音声エージェント技術」
バス車内のサイネージを通じて運賃や目的地への行き方等を応答。
- 3 「運行管制技術」など
乗降数の予測に基づいて最適なルートで運行し時間短縮を図る。

全体イメージ

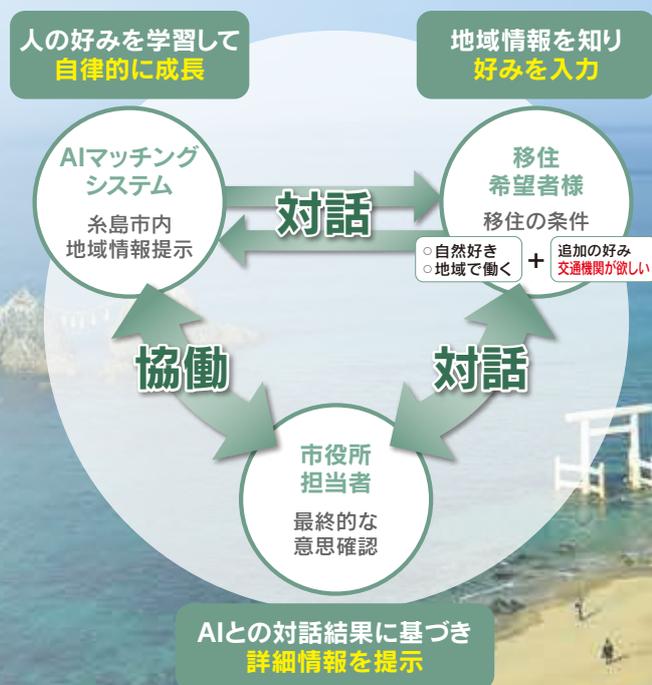


自律成長するAIを用いて 移住満足度向上を目指す実証実験

九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 富士通ソーシャル数理共同研究部門と福岡県糸島市、株式会社富士通研究所は人間の好みを徐々に学習し自ら成長するAI(人工知能)を用いて、地方都市への移住希望者と移住候補地を適切にマッチングさせるための共同実証実験を開始しました。

移住希望者の好みをAIに学習させ、適切と考える移住候補地の地域密着情報^{*}を提示し、提示された地域の評価を繰り返してもらうことで、移住希望者と移住候補地のマッチングを支援する実証実験です。本実験を通じて、社会受容性を加味したAI技術の開発を行い、今後の移住希望者にとって満足度の高い移住地マッチングを行う仕組みの構築を目指します。

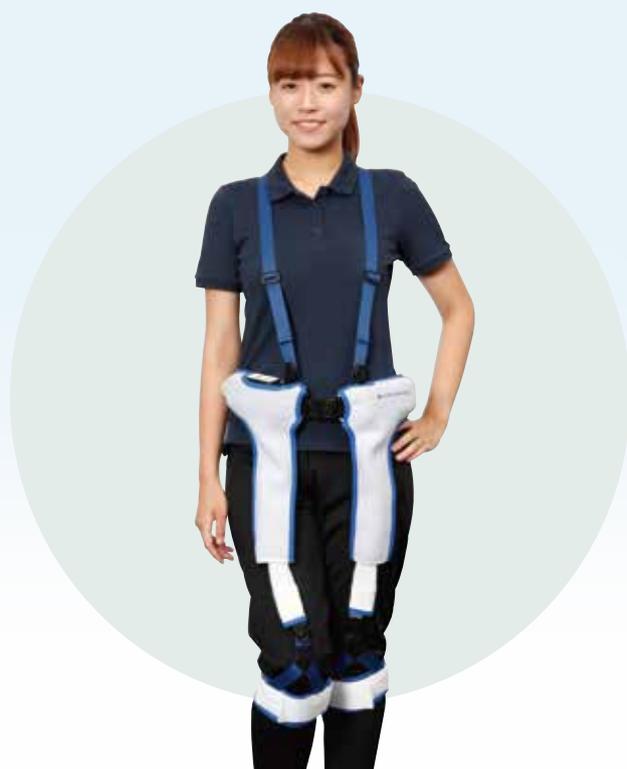
^{*}人口や面積といった統計的な情報だけでなく、地域の行事や雰囲気などを伝える地域での生活に密着した情報



歩行アシストスーツの実用化

九州大学、糸島市、住友理工株式会社が連携し、高齢者の健康・介護を支援する拠点を開設し、歩行アシストスーツの実用化に向けた実証実験を実施しています。

- ①リハビリテーションや介護予防事業での歩行訓練
- ②買物や散歩など日常生活の中での歩行訓練で使用することを想定しており、早期の販売開始を目指しています。



世界をリードする 教育・研究拠点として、 国際交流事業の充実に注力

九州大学は、地理的・歴史的な特性を生かしアジアを代表する教育・研究拠点としての基盤を築いてきました。その実績を基に、あらゆる分野で将来を担える卓越した人材の育成をさらに推進します。

2014年度には、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業タイプA(トップ型)に採択されました。これまでの大学改革、教育・国際化の取組等の実績と、多面性(学術分野の多様性を生かした国際連携)、発展性(アジア戦略の成果に立脚した世界展開)、重層性(研究型総合大学としての層の厚い教育・研究)という本学の3つの強み・特色を基に、グローバル戦略に基づいたガバナンス・制度の戦略的改革を全学で推し進め、世界大学ランキングトップ100位を目指します。

桂木講堂
SHIKI HALL

●「スーパーグローバル大学創成支援」事業の取組概要

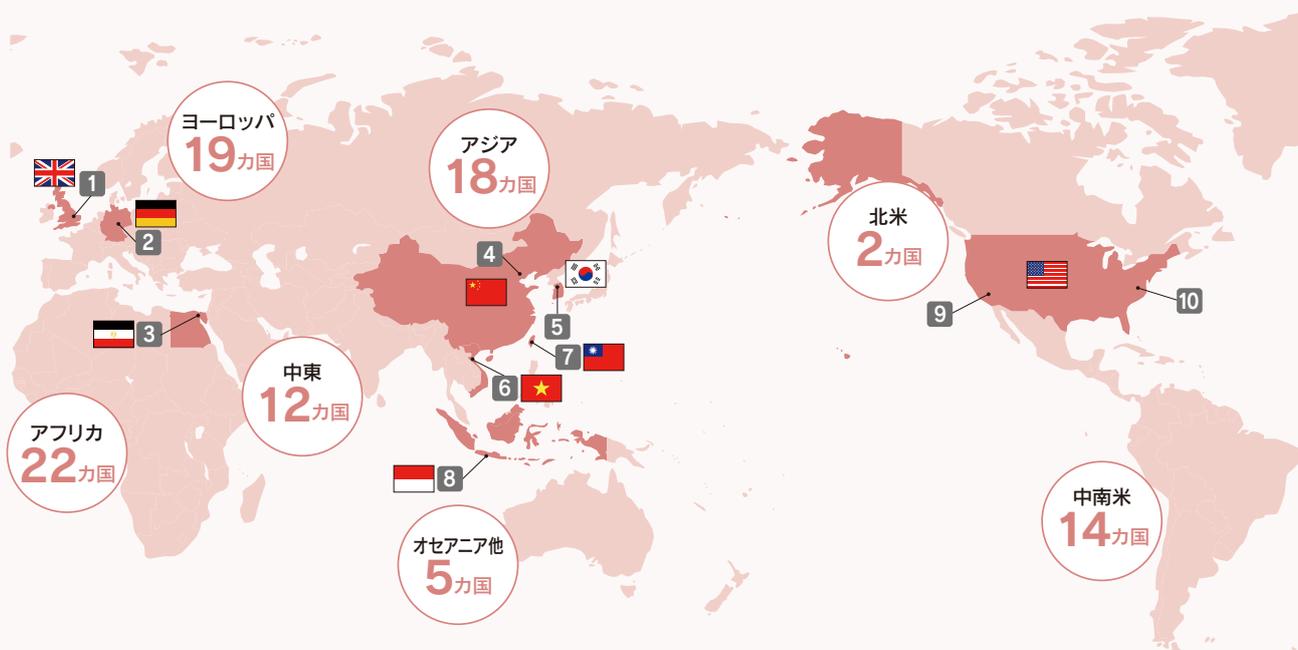
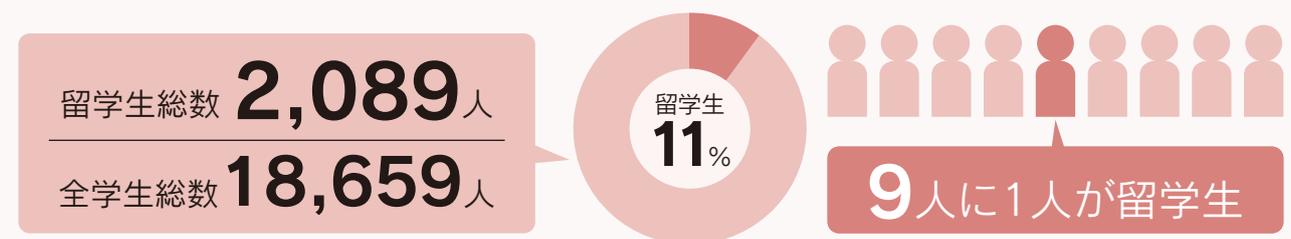
1	教育システムの国際化推進	新学部設置、四学期制の導入、ジョイントディグリー(JD)・ダブルディグリー(DD)プログラムの実施 など
2	研究の国際化推進	世界トップクラスの大学との研究交流、若手教員の戦略的海外研修促進、研究・教育ポートフォリオの戦略的組替え など
3	国際化を支えるガバナンス・制度改革	グローバル化推進本部設置、エグゼクティブ機能強化、若手・外国人・女性教員の積極的採用 など
4	国際的評価の向上 [戦略的レピュテーション・マネジメント(RM)強化]	留学生・外国人研究者に対する環境づくり、混住型宿舎の設置・拡充、留学生に対する就業支援(創業特区・福岡市との連携)
5	留学生・外国人研究者に対する環境づくり	混住型宿舎の設置・拡充、留学生に対する就業支援(創業特区・福岡市との連携)
6	海外拠点の整備充実	海外研究教育拠点群 (ラ・トロワ大、イリノイ大、スタンフォード大 など)

世界92の国と地域から、 多くの留学生が集まる高い国際性

九州大学は、大学全体が一体となって留学生の募集から企業への就職を含む出口支援までを一貫して推進しています。

●九州大学で学ぶ留学生数・海外オフィス

九州大学には2,000人を超える留学生が集まります。海外からの優秀な留学生の獲得と、海外における学術情報の発信・収集を行うため、世界各地に海外オフィスを設置しています。



主な留学生出身国

中国	1,023人
韓国	260人
インドネシア	116人
ベトナム	75人
マレーシア	54人
エジプト	46人
タイ	42人
バングラデシュ	42人
台湾	40人
フランス	27人
アメリカ合衆国	22人
ブラジル	15人
その他アジア	121人
それ以外	206人

海外オフィス

- 1 ロンドンオフィス(イギリス)
- 2 ミュンヘンオフィス(ドイツ連邦共和国)
- 3 カイロオフィス(エジプト)
- 4 北京事務所(中国)
- 5 ソウルオフィス(韓国)
- 6 ハノイオフィス(ベトナム)
- 7 台北オフィス(台湾)
- 8 ガジャマダ大学内ブランチオフィス(インドネシア)
- 9 カリフォルニアオフィス(アメリカ合衆国)
- 10 ワシントンD.C.オフィス(アメリカ合衆国)

(平成28年5月1日現在)

海外からの留学生や研究者の、 受入体制を整備・強化

● 外国人留学生・研究者サポートセンター

海外から来日する留学生や研究者の修学・生活支援を行うサポートセンターを各キャンパスに設置し、スタッフを配備。受入体制の整備に力を注いでいます。

【サポート内容】

- 査証(ビザ)取得のための在留資格認定証明書(CoE)交付申請手続き
- 来日時、福岡空港等から宿舎・大学までの移動支援
- 民間アパート探しのための情報提供・入居手続き支援
- 日本での生活に関する各種手続きの支援
- 学内文書の英文化支援
- 窓口での通訳
- 留学生サポートチームとの連携・協力
- その他外国人留学生・研究者への生活支援に関する情報提供



● 短期留学生受入プログラム

Japan in Today's World (JTW)

学生交流協定校から選抜・派遣された留学生(主に学部)を中心に、1学期または1年間英語による授業や自主研究を中心に専門教育を行うコースです。



Summer in Japan (SIJ) サマー・プログラム(旧ATW)

海外の大学から学生を受け入れる、5週間のサマープログラムです。現代日本についての専門科目授業と日本語授業を提供しています。



Japanese Language and Culture Course (JLCC)

海外の大学で日本語・日本文化に関する分野を専攻している学生(主に学部)を1年間受け入れ、日本語能力の向上を図るとともに、日本の社会や文化に関する理解を深めることを目的としたコースです。



ASEAN in Today's World (AsTW) スプリング・プログラム

九州大学とASEAN加盟国の有力大学が共同で開催する、英語によるASEANと東アジア、およびアジア言語文化を学ぶ短期留学プログラムです。



学生の国際性を育てる、海外派遣

● 交換留学

九州大学が海外の大学と締結した学生交流協定に基づき、1学期から1年以内の期間で協定校に留学する制度。大学間交流協定校への留学と部局間交流協定校への留学の2種類があります。

● 官民協働海外留学支援制度

～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～

文部科学省が民間企業と官民協働で取り組む海外留学支援制度。「実践活動*」を含む28日間から2年以内の留学計画を自ら設計する派遣学生に対して、奨学金、留学準備金および授業料が支給されます。

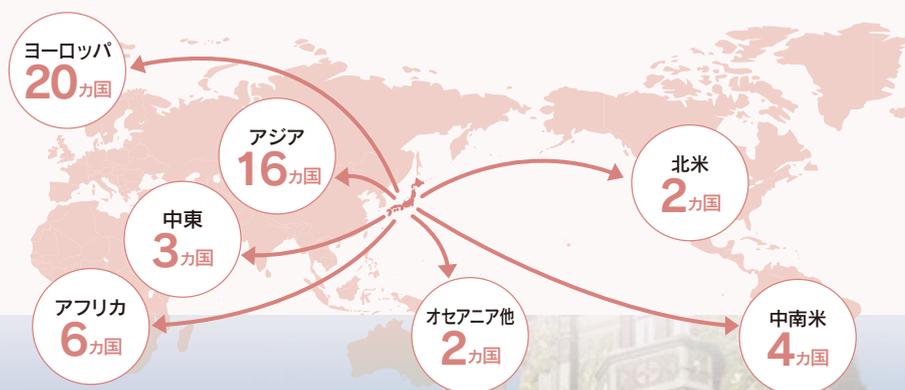
*インターンシップ、フィールドワーク、PBLなど「実社会と接点」を持つ活動

● シリコンバレー英語研修プログラム

カリフォルニアオフィスの全面的なバックアップにより、協定校でもあるサンノゼ州立大学の附属集中英語プログラムにおいて英語研修を実施しています。



写真提供:九州大学カリフォルニアオフィス



995人の九大生が
53の国・地域へ

(平成27年度実績)

韓国研究センター

韓国政府の支援を受け、日本最初の韓国研究センターとして2000年に開設。

韓国を中心とする朝鮮半島地域の総合的かつ挑戦的な研究を牽引するとともに、国内外の研究者との共同研究をコーディネートするなど、韓国研究の要としてさまざまな活動をしています。

● 韓国研究の中核大学として

日本における韓国研究の中核を担うとともに、国際的な評価に耐える研究組織の充実に努めています。とりわけ朝鮮半島にまつわる文化・歴史の研究をはじめ、緊迫する北東アジアの国際情勢を踏まえた現代的な諸課題にも対応すべく、さまざまな資料の調査と整理、さらには情報の収集と分析を心がけています。また、国外から定期的に研究者を客員教授として招聘するとともに、学内外の研究者と共同で研究会や各種のワークショップを開催し、かつ大学院教育を通じて次世代の若手研究者の育成にも注力しています。

● アジア太平洋カレッジ (CAP)

九州大学・西南学院大学・釜山大学校・ソウル大学校・延世大学校・ハワイ大学による国際共同教育プログラム。英語を共通言語とし、1年目は日韓の学生が相互のキャンパスを共有し、2年目には1年目の参加者から選抜されたメンバーがハワイ大学で実施される日韓米3カ国の共同による教育プログラムに参加します。本プログラムは、グローバルかつローカルな視点を備えた次世代リーダーの育成を目指しています。

EUセンター



Co-funded by the
Erasmus+ Programme
of the European Union

EU (欧州連合) への知識や理解を深める目的で、2016年3月まで活動した「EUI九州」の運営母体として2010年に開設。2016年6月より、これまでの豊富な活動成果を生かし、EUに関する研究教育の一層の拡充を図るため、教育プログラム (EU-DPs) を軸とした新たなタームでの活動を開始。

また、2016年9月からEUの教育助成プログラム (エラスムス・プラス) のもと、日本で2拠点目となる「Jean Monnet Centre of Excellence (ジャン・モネCoE)」を獲得しました。EUセンターは「ジャン・モネCoE九州」事業を実施し、さまざまな活動を通して本学のグローバルな展開を強化しています。

● 主な活動

教育	EU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) によるEUについての体系的学習機会の提供、夏季合宿・EU研修旅行の実施	アウトリーチ	WebサイトやSNS、オンラインニュースレターによる活動情報の発信、一般向け講演会の実施
研究	学術シンポジウムの実施、学術雑誌 (電子ジャーナル) の発行	他機関との提携・協力	国内外のEUセンターとの協力活動の展開

アジア太平洋未来研究センター

九州大学が培ってきた「アジア重視戦略」の成果に立脚した世界展開を進めていくために、2014年に開設。

「アジア太平洋共生の共通基盤となる独自の新学問分野」を切り拓き、新たな社会的アジェンダを提起し、本学の人文・社会科学分野における世界的評価を高める原動力となることを目指しています。

● 研究への貢献

- 優秀な次世代外国人研究者を確保するための好循環の創出
- 人文・社会系の発信力強化: 英語による国際的発信のためのゲートウェイ形成

● 教育への貢献

- 人文・社会系部局との連携
- 世界トップレベルの専門家による講義の提供

大学の経験・知見を活用し、 アジアを中心に実施する 国際協力

九州大学は、開発途上国への国際協力の実施と国際協力に資する人材の育成を目指しています。

特に、我が国の政府開発援助を担う独立行政法人国際協力機構(JICA)とは覚書を締結し、多様なJICAプロジェクトへの参画を通じて、本学が培ってきた教育・研究の蓄積や人材を活用し、途上国での活動を展開しています。

● E-JUST (エジプト日本科学技術大学)

日本政府の支援を受けて、「少人数、大学院・研究中心、実践的かつ国際水準の教育の提供」を目的としてエジプト政府が新設したE-JUST。九州大学は、日本国内の12大学で構成される国内支援大学の総括幹事校のひとつとして、日本・エジプト科学技術連携センターが中心となって、このプロジェクトを推進。

将来を担う教育者、研究者、技術者を育成し、中東・アフリカ地域の産業育成、経済発展などの国際貢献に寄与しています。



● MJIIT (マレーシア日本国際工科院)

日本・マレーシア両国政府の協力により、日本の工学教育の特長を生かした教育・研究を行うことを目的として開校され、マレーシア工科大学(UTM)の下に設置されています。九州大学は、26校の国内支援大学で構成されるコンソーシアムに参加し、「機械精密工学」専攻および「環境・グリーン技術工学」専攻、防災分野への支援を行っています。



● AUN/SEED-Net (ASEAN 工学系高等教育ネットワーク)

工学分野におけるASEAN地域の持続的な社会・経済的發展に資する人材育成推進のため設立された高等教育ネットワーク。

九州大学を含む14校の日本の支援大学の協力のもと、ASEAN地域26校のメンバー大学から構成されています。

● 各種国際協力プロジェクト

開発途上国から留学生を受け入れる「JICA研修員受入事業(JDS、ABEイニシアティブ等)」、地球規模課題解決のための共同研究「JST-JICA SATREPS」、JICAと連携して国際的な地熱開発人材育成を目指す研修コースの開講など、さまざまなプロジェクトに参画しています。

日本の医療をリードし、
世界へ発信する
九州大学病院



外来診療棟待合ロビー



● がん診療の連携拠点病院として

がんセンター

九州大学病院がんセンターは、2008年に福岡県の都道府県がん診療連携拠点病院として指定されました。外来化学療法室、がん相談支援センター、緩和ケアチーム、院内がん登録室を設置し、がん診療を充実。さらに、がん診療委員会やがんカンファレンス、あるいは福岡県がん診療連携協議会での研修会などを通じて、福岡県の「がん医療の均てん化(どこにいてもがんの標準的な専門医療を受けられること)」を推進しています。

小児がん拠点病院

本院は、小児の固形がん、血液がんともに、すべての臓器をカバーできる診療体制を整えており、院内学級や緩和ケア、小児がんに特化した保育士や臨床心理士の配置など患者サポートも完備しています。これらのことから、2013年に九州・沖縄ブロックで唯一の「小児がん拠点病院」の指定を受けました。今後は、連携病院とのネットワーク構築や研修、難治例・再発例を集約し新規治療の開発推進などに取り組みます。



がんワクチン開発

● 次世代医療の実現へ向けて

国際医療部 — 57カ国とつながるグローバル医療

2015年4月に設置した「国際医療部」は、外国人患者さんの受け入れを行う「国際診療支援センター」、海外からの研究者の受け入れや派遣などの人事交流を行う「海外交流センター」および遠隔医療教育を展開する「アジア遠隔医療開発センター」の3つのセンターで構成しています。本院はこれまで、世界57カ国の400を超える大学病院等の医療機関との間で独自開発した高精細の医療画像伝送システムによる相互通信のカンファレンスを実施するなど、アジアで唯一の遠隔医療教育拠点としての実績があり、これにより全国の国立大学病院の国際化ネットワークの中心的役割を担ってきました。今後は、その実績と成果をさらなる国際化へと生かしていきます。



世界57カ国を結ぶテレカンファレンス

夢を現実にする臨床研究中核病院

2016年1月に、「臨床研究中核病院」の承認を受けました。この臨床研究中核病院は、日本発の革新的医薬品・医療機器の開発などに必要となる質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院です。この承認により、今後より多くの症例や優れた研究者、他機関からの相談や研究依頼が集まり、より質の高い臨床研究や治験を実施することが期待されます。本院は、臨床研究推進の拠点病院として「夢の医療」を「現実の医療」にすることを目標に、革新的な新規医薬品等の開発を目指していきます。

● 救命救急医療への取組

救命救急センター

各科の専門医が24時間体制で重症の患者さんに対応。3次救急全般の中でも特に急性心筋梗塞や脳卒中などの心血管病、重症外傷、小児救命救急センターでは、小児救急疾患に力を入れています。緊急度、重症度を迅速かつ正確に判断し、人工呼吸管理、体外循環補助、血液浄化療法など高度なツールをタイミングを逃さず用いて患者さん自身の治癒力を引き出す医療を心がけています。

また2016年4月の熊本地震では、九州の災害拠点病院として、九州大学DMAT(災害派遣医療チーム)が、初日より被害の最も甚大だった益城町で診療を担当しました。2日目からは、ヘリなどで熊本からの母体や重症小児の搬送の積極的な受け入れを行いました。



九州各県から患者さんが搬送されるヘリポート



● 世界最高水準の医療技術の導入

ロボット支援手術

2016年2月、全国に先がけて「臨床教授等制度」を活用し、国家戦略特区としてグローバルな創業・雇用の創出を目指す福岡市との共同事業として、胃がんのロボット手術分野では世界一の執刀実績をもつヒョン教授を韓国延世大学から招いて、手術支援ロボットによる胃がん手術を実施し、8月には第2例目の招聘を行い、九州大学病院では初めてのロボット支援手術を行いました。

この制度は、海外から世界的なスーパードクターを招聘し、同医師による医療行為とその高度な医療技術の指導を受けることを目的とした制度です。本院では、今後も優れた外国人医師を世界各国から積極的に招聘し、世界最高水準の医療技術を導入していきます。



ダヴィンチを用いた内視鏡下ロボット支援手術

「学修・教育・研究」の中核 九州大学附属図書館



● 主体的な学びを創出する学修環境

目的や学修形態に応じた多様な学修スペースを整備するとともに、各種講習会の実施、大学院生の図書館TA(Cuter)による学修相談なども充実させ、学生の能動的学修を支援しています。また、年々増加する留学生に対しても、ガイダンスや英語での各種講習、日本語学習資料の整備など充実したサービスを提供しています。



● 豊富なコンテンツの提供と 学術情報の社会への発信

創設以来収集してきた400万冊を超える蔵書と70,000タイトル以上の電子ジャーナル、電子ブックなど、国内トップレベルのコンテンツを提供して学修・教育・研究をサポートするとともに、学内の研究成果や図書館所蔵の貴重資料など、大学が生産・蓄積している学術情報を広く社会へ公開することにより、地域の学術・教育・産業の活性化にも貢献しています。

● 高品質な教材の開発・支援・公開

付設教材開発センターでは、ICTを積極的に活用した教材を提供しています。講義ビデオ教材や3次元CGを活用した電子教材を開発し、これらの電子教材は、YouTube、iTunesU、OCW等を通じて、学内に限らず一般市民へも広く学習機会を提供しています。また、本学が目標として掲げている大学教育の国際化の一環として推進している英語授業のための英語教材の開発にも力を注いでいます。

● 九州大学の次の百年を担う新中央図書館

「いざなう(encourage)」、「つなぐ(link)」、「うみだす(create)」、「はぐくむ(cultivate)」を基本コンセプトとする新たな中央図書館は、伊都キャンパスの椎木講堂に隣接し、基幹教育棟とブリッジで連結されます。また、屋上を文系のキャンパスとして機能させる特徴的なデザインとなっており、多様な学修空間と豊富なコンテンツの提供により、2018年秋にアクティブ・ラーナーの育成と学術研究、および九州大学の国際化拠点となります。



学術研究都市の中核 伊都キャンパス

2011年に創立百周年を迎えた九州大学は、先人が残した幾多の成果を礎とし、次の百年を築くための舞台ともなる「伊都キャンパス」の整備を進めています。

糸島半島の豊かな自然環境と共生し、産学官民の連携によって整備される学術研究都市の中核として、また、「都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学」、「グローバル・ハブ・キャンパス」として発展し続けるため、伊都キャンパスの整備は進んでいます。

● 学術芸術文化の拠点椎木講堂

「しいき教育文化振興基金」会長の故・椎木正和氏の建設費寄附により建てられた地上4階建ての円形講堂。最大約3,000人を収容可能なコンサートホールの一部は、講義室としても活用できるほか、常設のギャラリー、レストランを備え、会議や講演会など一般の方にも広く利用いただける施設です。



● 移転スケジュールと進捗状況 (平成28年12月5日現在)

第Ⅰステージ (平成17～19年度)

移転人数：約5,200人

総数：約5,200人
(学生4,200人／教職員1,000人)
工学系(工学部建築学科を除く)
理系図書館Ⅰ

箱崎より移転完了
(～H18年度)

第Ⅰステージ終了

第Ⅱステージ (平成20～23年度)

移転人数：約5,600人

総数：約10,800人
(学生9,500人／教職員1,300人)
基幹教育院
比較社会文化研究院、言語文化研究院
数理学研究院、理学部数学科
マス・フォア・インダストリ研究所
理系図書館Ⅱ

六本松より移転完了
(～H21年10月)

第Ⅱステージ終了

第Ⅲステージ (平成24～30年度)

移転人数：約7,900人

総数：約18,700人
(学生15,500人／教職員3,200人)
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究センター
椎木講堂、伊都協奏館・ドミトリーⅢ
共進化社会システムイノベーション施設、理学系

【今後の移転予定】

- 附属図書館(H28・H30)
- 情報基盤研究開発センター(H28)
- 人文社会科学系(H30)
人文科学研究院、人間環境学研究院
〔工学部建築学科を含む〕
法学研究院、経済学研究院、統合新領域学府
- 農学系(H30)
農学研究院、附属施設等
- その他(H30)
留学生センター、事務局
課外活動施設など

※()は年度を表す。

【用地再取得】

H24年度完了

学生の生活支援と キャリアサポート



●学生寮

学生寄宿舎は、伊都キャンパス周辺に所在するドミトリーⅠ、ドミトリーⅡ、ドミトリーⅢと伊都協奏館の4つの施設と、箱崎キャンパス周辺に所在する松原寮(男子学生)と貝塚寮(女子学生)の2つの施設、そして大橋キャンパスに近い井尻寮(男子学生)の合わせて7つの施設があります。



世界に通用するグローバルリーダーを養成する新たな学生寮

九州大学の国際交流の拠点として、ルームシェア型のドミトリーⅢと、留学生が主に居住する伊都協奏館を建設しました。日本人学生と留学生が混住することにより、異文化交流、豊かな人間性の形成、外国語コミュニケーション能力の向上を期待しています。多国籍の学生が寝食を共にし、日常的に切磋琢磨する環境をつくり、国際的に活躍できるグローバル人材の養成を図ります。

● **経済的支援** 学生が安心して教育・研究に専念できるように、また、グローバル・リーダー育成のために、様々な経済的支援を行っています。

- 入学料免除
- 入学料徴収猶予
- 授業料免除
- 山川賞(山川健次郎初代総長の名を冠した賞)
【九州大学基金の奨励金】
- チャレンジ&クリエイション(C&C)
【九州大学基金の支援事業】
- 学生の国際会議等参加支援
【九州大学基金の支援事業】
- 研究活動支援助成
【九州大学学生後援会の研究奨励費】
- 緊急助成金
【九州大学学生後援会の助成金】
- 奨学金制度
本学独自の奨学金のほか、日本学生支援機構や民間団体等による奨学金制度があります。
- 海外留学支援
本学では学生の海外留学を積極的に支援しており、本学独自の支援制度のほか、民間団体等による支援制度があります。

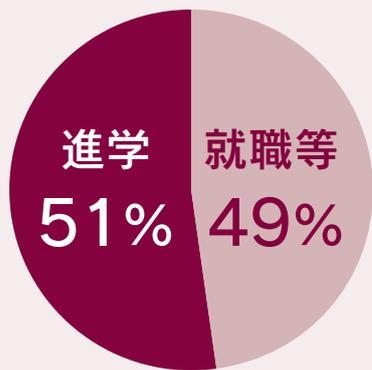
※経済的支援については、各制度によりそれぞれ対象等が限定されている場合があります。申請すれば必ず得られるものではありません。詳細は九州大学Webサイトでご確認ください。

● **就職・キャリア支援** 九州大学では学生の就職を支援する様々なプログラムを提供しています。また経験豊かな進路・就職アドバイザーによる就職相談も随時利用することができます。

STEP1	STEP2	STEP3
<p>キャリアガイダンス 低年次の学生(学部1・2年生)を対象に「主体的に進路を選択する能力の育成や就業意識の形成」を目的としたガイダンスを実施</p>	<p>自己啓発プログラム TOEIC対策など英語能力向上のためのプログラムを提供</p>	<p>インターンシップ 学生が就職に向けて企業等で就業する研修制度を実施</p> <p>就職ガイダンス・プログラム 3年生以上を対象に就職活動の進め方に関するガイダンスから、模擬面接等の就職セミナー、学内合同企業説明会、就職フェア(就職面談会)などを実施</p>

● **進路・就職状況** 卒業生の全体の約51%が大学院に進学し、約49%が就職または資格試験などに取り組んでいます。(2015年度・学部卒)

進学・就職等の割合



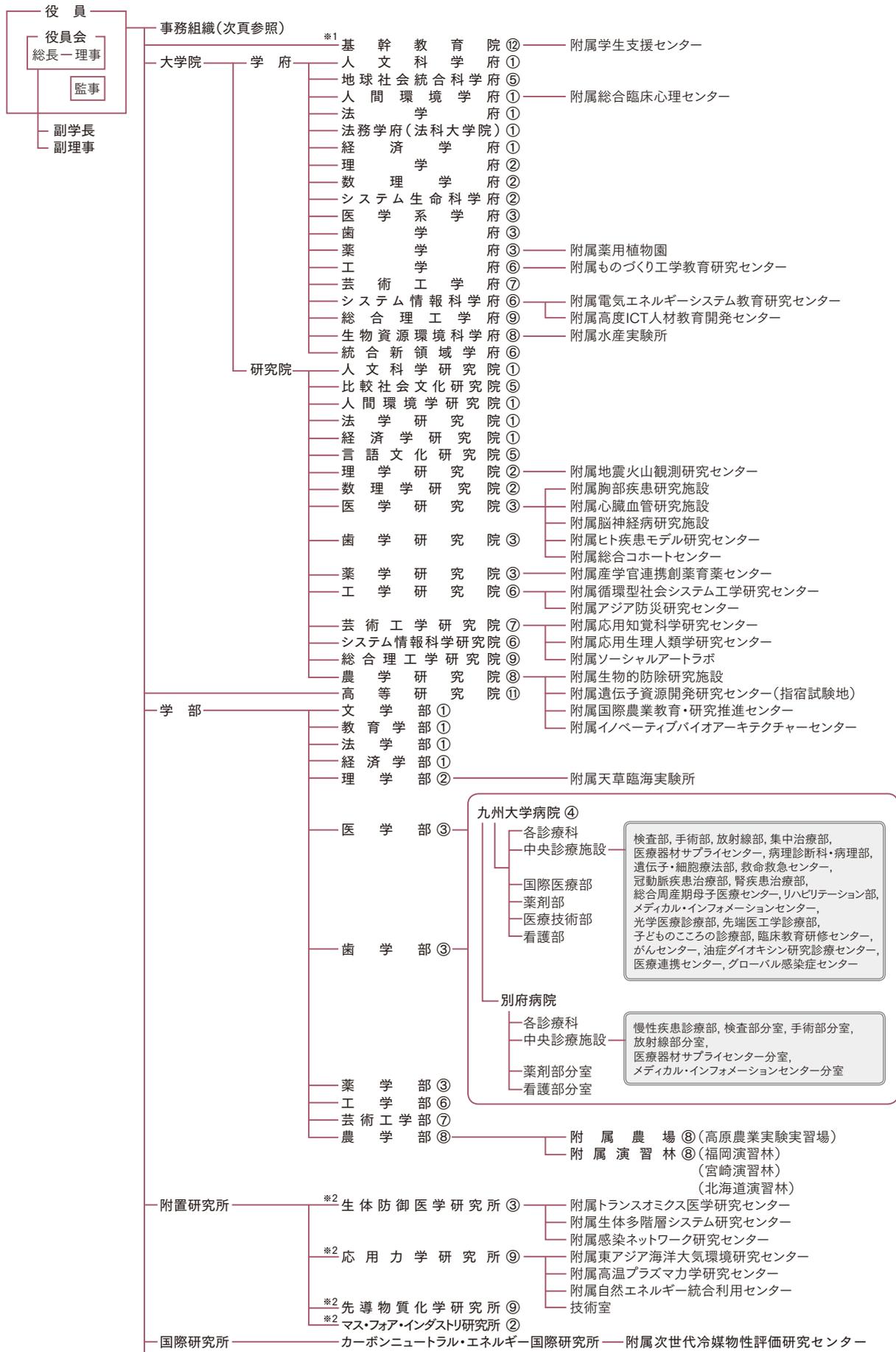
主な就職先

- 【民間】
 - 三菱東京UFJ銀行 ■ 三井住友銀行 ■ ゆうちょ銀行 ■ 福岡銀行
 - 西日本シティ銀行 ■ 日本郵政 ■ 商工組合中央金庫 ■ 大和証券
 - 東京海上日動火災保険 ■ トヨタ自動車 ■ マツダ ■ 三菱電機
 - 東芝 ■ 富士通 ■ 九州電力 ■ オービック ■ NTTドコモ
 - JFEスチール ■ 日本放送協会 など
- 【公務員】
 - 福岡県 ■ 福岡市 ■ 中央省庁 など
- 【学校・病院】
 - 九州大学(病院を含む) ■ 公私立高等学校
 - 東京大学医学部附属病院 など

学部別進学・就職等の割合

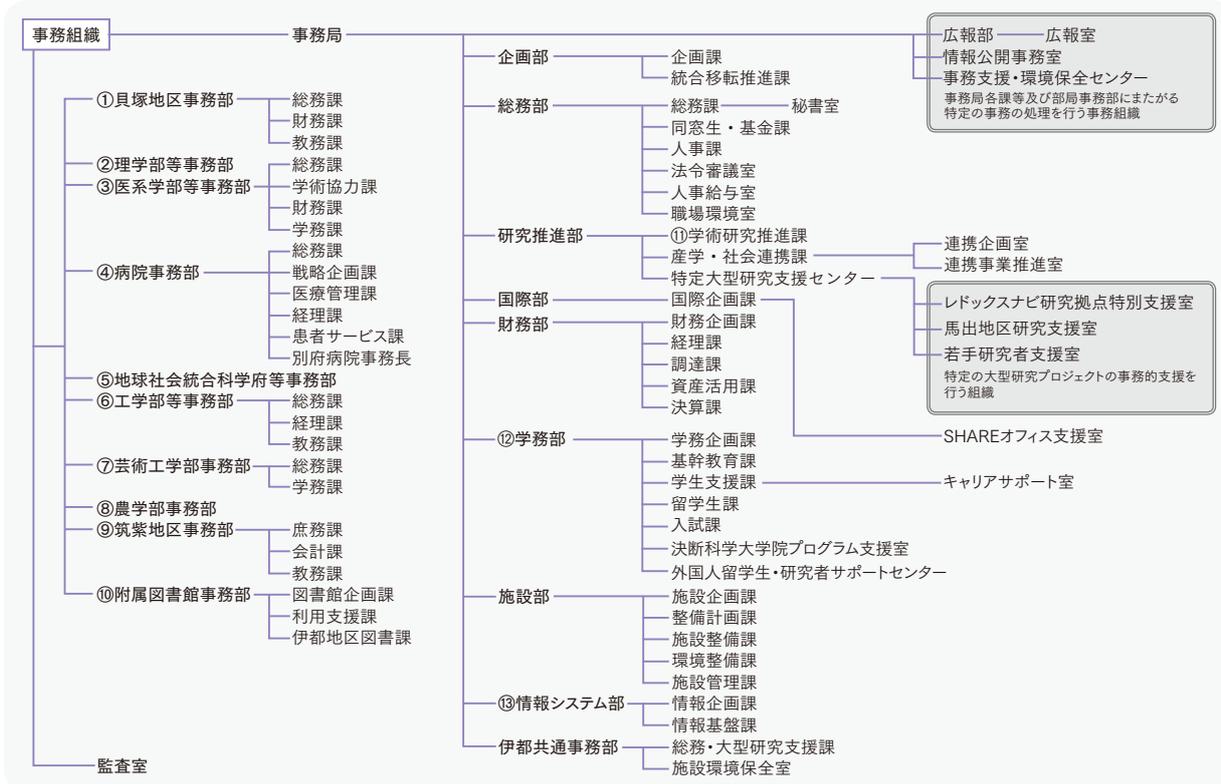
進学	文学部	就職等	進学	歯学部	就職等
19.2%		80.8%	0.0%		100.0%
36.7%		63.3%	59.5%		40.5%
13.1%		86.9%	85.5%		14.5%
4.8%		95.2%	66.9%		33.1%
75.3%		24.7%	44.0%		56.0%
12.3%		87.7%	24.0%		76.0%

大学の組織





※1 文部科学省の認定を受けた教育関係共同利用拠点
※2 文部科学省の認定を受けた共同利用・共同研究拠点



データで見る九州大学

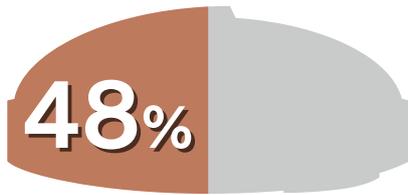
● 九大生

(平成28年5月1日現在)

学生の人数
(学部・大学院合計) **18,659人**

福岡ヤフオク!
ドーム収容人数 **38,500人**

学生だけで、福岡ヤフオク!ドーム
収容人数の約半分が埋まる

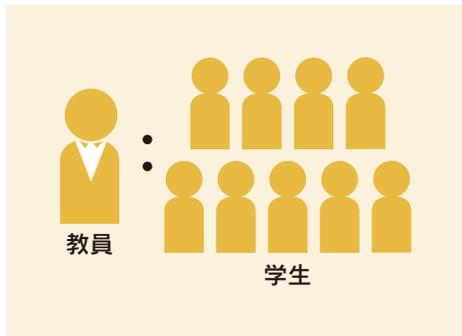


教員の人数 **2,036人**

(その内外国籍教員297人)

9人の学生に1人の教員

学生にひとりひとり行き届いた、
手厚い教育や研究を行う環境がある



● 学部

(平成28年5月1日現在)

学部	学生数	男女比	
		男	女
全体	11,758名	72%	28%
文学部	718名	40%	60%
教育学部	228名	37%	63%
法学部	851名	65%	35%
経済学部	1,079名	78%	22%
理学部	1,253名	80%	20%
医学部	1,315名	59%	41%
歯学部	336名	60%	40%
薬学部	398名	62%	38%
工学部	3,661名	91%	9%
芸術工学部	919名	63%	37%
農学部	1,000名	56%	44%
21世紀プログラム	118名※	35%	65%

※各学部に在籍している学生のうち、21世紀プログラムの課程を履修している学生数(内数)

● キャンパス学習資源

(平成27年現在)

■ 附属図書館	蔵書数 425万冊
■ 総合研究博物館など	貯蔵点数 750万点
■ 附属病院	病床数 1,415床
■ 椎木講堂 コンサートホール	最大収容人数 3,000人
■ 九大での国際会議	件数 144件(全国1位)

(<http://www.kyushu-u.ac.jp>)

● 福岡市ってどんなところ？



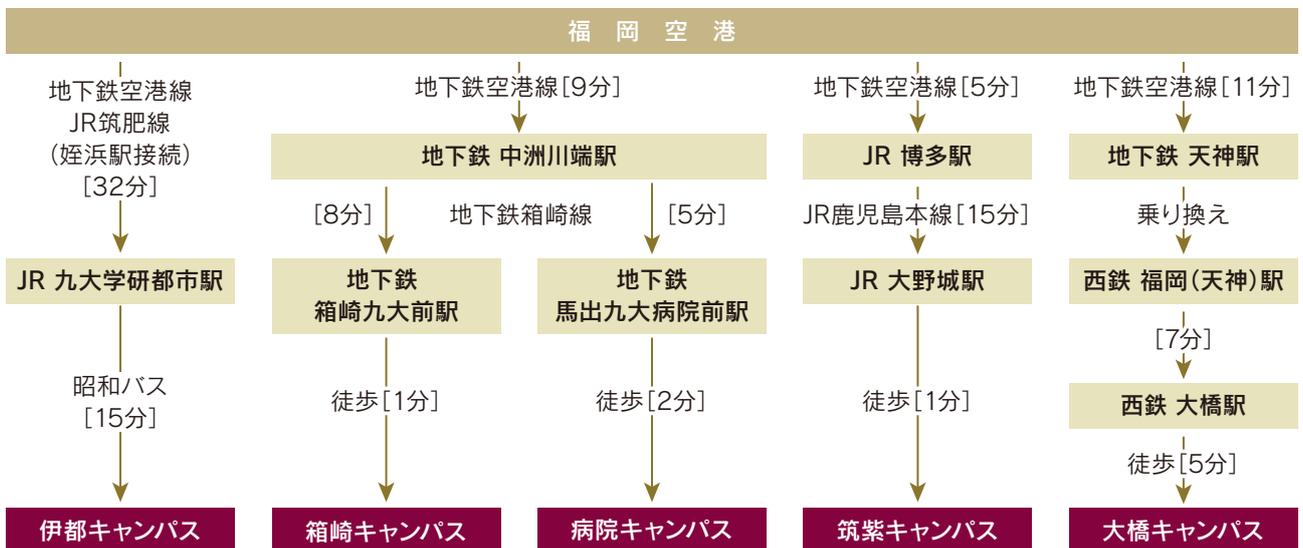
参考: Fukuoka Facts (<http://facts.city.fukuoka.lg.jp>) (平成28年11月現在)

キャンパス所在地／アクセス



伊都キャンパス	〒819-0395 福岡市西区元岡744
箱崎キャンパス	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
病院キャンパス	〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
筑紫キャンパス	〒816-8580 春日市春日公園6-1
大橋キャンパス	〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1
別府キャンパス	〒874-0838 大分県別府市大字鶴見字鶴見原4546

● 交通アクセス



※所要時間はおよその時間。 ※伊都キャンパスへは、博多、天神からの直行バスも運行。
 ※その他のアクセス方法は<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/>でご確認ください。

2017年1月
発行

九州大学 広報室

〒819-0395 福岡市西区元岡 744
<http://www.kyushu-u.ac.jp>